

○議長（牟田勝浩君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、12番吉川議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。自由民主党、政策研究クラブの吉川でございます。ただいま議長から登壇の許可をいただきましたので、私の一般質問を始めたいと思います。

今回、通告は4点ございます。通告の順に従っていきたいと思います。

まず、国民健康保険の安定運営というふうなことでお伺いをしたいと思います。

さきの11月に平成22年度の決算が行われたわけでありまして、武雄市の財政状況を見ますと、国保の決算が一番今課題になっているのではないかなというふうに思っております。

国民健康保険制度につきましては、昭和36年に制定をされて、国民皆保険というふうなことで、国民がひとしく医療を受ける制度がちょうど半世紀前にできたわけでありまして、今に至っては制度がひずみを起こしているということでありまして。ただ、この半世紀の間、日本国が長寿社会になった一つの要因というふうにも言われておるわけでありまして、現在、状況を見ますと、医療の高度化あるいは高齢化、こういったものの進展によりまして、医療費が物すごく増加をしてきている。それからまた、逆に負担の部分、歳入の面でいきますと、保険税の伸びがなかなか伸びないということで、非常に問題視をされておるところでございます。

そういう中で、この武雄の国保運営についても大きな赤字を出しているということで、この国保会計については、台所事情は火の車の状態にあるという認識を私は持っておりますけれども、まず、市長もそのことに対して同じ認識をされているかどうかお伺いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

火の車、同じ認識です。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

同じ認識ということで質問させていただきたいと思いますが、まず、今の国民健康保険の状況を見ますと、保険税については各市町村が担当するというふうなこと、それから、給付については国が今管理をしております。ということで、この国民健康保険については一

元化ができていない。そういうことも踏まえて、非常に大きな格差になっている、弊害になっているというふうに思っております。

県内の10市のうち、8つの市がもう赤字決算に陥っているというふうな状況にあるわけがありますけれども、これについては各市町村の問題もありますけれども国の問題、国がやはり全くやらない、けしからんというふうに思うわけでありまして、このことについてのどのように思われるのか。

今、民主党政権につきましては2年になります。国民生活が第一というふうなことで立ち上がったわけでありまして、何ら対策が打たれない。そしてまた、社会保障等税の一体改革、今進められております。しかし、消費税の増税論が先走っておりまして、具体的な医療、福祉、年金、こういったコンセプトが全く示されない。このことに対して、国保も踏まえて国の対応をどのように市長は認識をされているかお伺いします。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

もうでたらめですね。先ほど吉川議員からありましたように、何で住んでいるところで保険料が違ったり、そういったことになるのでしょうか。日本国というのは、基本的に全国一律というのは無理にしても、やっぱり佐賀県内ぐらい一緒にならんぞ、佐賀県の意味のなかですもんね。さばけんて言われます。ですので、そういったことから、やっぱり後で出てくるかもしれませんけれども、しっかり広域化ということをするには必要だというふうに認識しております。

**○議長（牟田勝浩君）**

12番吉川議員

**○12番（吉川里己君）〔登壇〕**

（パネルを示す）それでは、ちょっと各論の部分に入っていきたいというふうに思います。これは武雄市の国民健康保険の収支の状況をフリップにしたものでございますけれども、グリーンの部分の棒グラフが単年度収支であります。それから、赤の折れ線グラフが累積の収支を示しております。平成20年度から後期高齢者の医療制度が始まったわけでありまして、この年におきましては、総額で1億6,361万円の単年度赤字を出している。しかし、このときには、繰越金が7,400万円ほどございました。それと、8,943万円の部分につきましては繰り上げ充用をしている。平成21年度は7,380万円の繰り上げ充用、そして、平成22年になりますと8,803万円の単年度赤字と、この年にはちょうど診療報酬の改定がなされた年であったというふうに記憶をしております。それと、過年度償還金が5,000万円ほどあった。そういうことで累積赤字が何と2億1,797万円まで膨れ上がるとのわけですね。

武雄市の国保の赤字の状況に対して、担当部長はどのように分析をされているのか、まず

お伺いしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

国民健康保険会計につきましては、吉川議員御指摘のとおり、大変厳しい状況になっているということでございますけれども、近年、武雄市におきましても相当な赤字が出ているという状況でございます。

この赤字の原因ですけれども、やはり国民健康保険そのものが例えば被用者保険をやめられて国民健康保険に入られる、その際は、年金あるいは無職という状態に入って来られる方もいらっしゃるわけですので、そういった意味では、国民健康保険は所得の少ない方で構成をされているという状況ですので、非常に厳しいというのが近年続いているわけですね。さらに言いますと、経済の状況が非常に悪いというようなことで、保険税の調定額についても年々減っているという状況でございますので、このようなものも影響している。

さらには、高齢化がどんどん進展をいたしておりますので、こういった医療費がどんどん高くなっているという状況もありますので、そういったものが相まって赤字がふえている状況にあるというふうに認識をいたしております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

平成22年度については私から答弁をしたいと思います。

（パネルを示す）特に平成22年度が、ちょっとこれ今まで見ないぐらいに赤字が膨らんでいるのは診療報酬の改定に伴うものであります。これ全体改定額が0.19%、これ約700億円で10年ぶりのプラス改定になっているんですね。その中で、特に上げ幅が大きいのが3.0%という入院です。この入院も急性期の入院医療に重点配分になっております。したがって、国全体として救命救急の入院を充実させなきゃいけないといったこと、これについては、お医者さんだけの負担ではとても賄い切れないということで診療報酬を上げましょうという影響が今回の、これ国全体ですけれども、赤字につながっているということはずいぶんお伝えをしたいと思います。

その中で武雄のことを申し上げますと、（パネルを示す）もう宮本栄八議員も書かれないと思うんですけれども、要は、あほな話が結構広がっていて、新武雄病院ができたから医療費が国保は上がるんだという指摘も、山口昌宏議員も以前指摘をされておりましたけれども、あるんですよ。だけど、これ見てもらえばわかるように、もともと同じ病気は同じ値段であります。その中で、比較しても嬉野医療センターであったりとか、佐賀大学の医学部病院で

あつたりとか、白石の共立病院と比べるとほとんど変わらないわけですね。ですので、その議論は全く当てはまらないということを伝えるのと同時に、もともとこれも誤解があるんですけども、例えば、山口昌宏議員が倒れたとしましょう。そのときに、大村の国立のセンターですよ、あそこで治療を加療しても例えば新武雄病院で治療を加療しても、その国保というのは武雄の国保に響くわけですね。ですので、どこで治そうと、どこで治療をして、どこで入院をしようとも、それは山口昌宏さんが武雄市民である限りは、その国保に響くわけですよ。だから、新武雄病院ができたからといって、別にいたずらに擁護するわけじゃないんですけど、誤った風評が広がっていて、それはもう全然ならない。むしろ、今まで旧市民病院とかたらい回しの権化だったわけですよ。そこがきちんと直ることによって、直すことによって、市民の福祉の維持向上につながっているということだけは、ぜひお伝えをしたいと、このように考えております。

ただ、そうは言っても、これで国保の問題とはまた別の話ですので、それはさらに議員各位のお知恵を借りながら運営の改善に努めてまいりたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

平成22年度の大幅な赤字については診療報酬の改定があったと、0.19%ですか。それから、急性期の入院、これに3.03%、約4,000億円ぐらい投下されていると、これが響いているということでございますけれども、じゃあお聞きしますけれども、平成23年度、もう残すところあと3カ月余りになったわけでありましてけれども、23年度末の見込みについて、もしわかればお伝えください。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

23年度につきましては現在、進行をいたしておるわけですが、一つ要因としましては、先ほども若干申し上げましたけれども、保険税の調定額については落ち込んでいるという状況もございますので、現在より好転をするという見込みは立っておりません。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

非常に厳しい状況にあるということですね。

それでは、（パネルを示す）国保の収支の改善をこれからやはり進めていかなきゃいけないというふうに思うわけでありましてけれども、私なりに考えられるものの項目をちょっと挙

げてみましたけれども、まず収納率の向上を目指す。それから、医療費の削減ですね、これは削減というか抑制、お医者さんにかからなくていいように事前に健康管理をするといった部分が主体になるというふうに思いますけれども、それから国保税の見直し、一般会計からの繰り入れ、あるいは広域化ですね、こういった点が主なものとしてあるわけでありまして。特に収納率とか医療費の抑制については、やはり単年度収支に物すごく影響してきますし、累積赤字の解消については、一般会計からの繰り入れ、こういった部分をやはり今後検討していく必要があるというふうに思います。

それから、安定運営については、やはりもう小さいまちで対応するのではなくて、大きいくくりで対応をしていくと、そういったことが必要ではないかなというふうに思っております。その中で、この収納率についてまずお伺いをさせていただきますけれども、現状の部分ですね。平成21年度が90.4%、それから平成22年度が90.8%ということで、0.4ポイントほど改善は1年間でされていますけれども、ほぼ横並びという状況でございます。

その結果、収入未済額が1億773万円ほどに上っているというふうにお聞きをしておりますけれども、この収納率でいきますと県の基準が93%、国の基準は91%ですね。武雄市は91.5%がカットラインと、ペナルティーラインというふうに思いますけれども、今回は広域化ということで、財政調整交付金のペナルティーはないというふうに伺っております。それにしても、90%台というのは非常に低いというふうに思いますけれども、収納率の状況と滞納ですね、こういった部分も含めて今の分析をどのようにされているか、まずお伺いします。

**○議長（牟田勝浩君）**

古賀くらし部長

**○古賀くらし部長〔登壇〕**

収納率につきましては90%台で推移をしているということで、平成20年度に後期高齢者医療制度が始まりまして、75歳以上の方が県で統一をされまして、従来75歳以上の方は年金収入が非常に多いということで、収納率につきましては大変よい方々でいらっしゃいましたので、その方々が後期高齢者医療制度に統一をされたということで、武雄市の国保、県内の市町村の国保はすべてでございますけれども、全体としては収納率が落ちたという経過が一つございます。

その上で、最近の経済情勢等々を考えると、それよりもさらに近年は落ち込んでいくという状況でございますが、22年度につきましては若干ではありますが改善をしたということで、この傾向を今後さらに続けていきたいというふうに考えておまして、23年度以降につきましても、税務課で特別のチームをつくったり、収納の相談に応じたり、そういったことを通じまして収納率の改善に努めていきたいというふうに考えております。

**○議長（牟田勝浩君）**

12番吉川議員

**○12番（吉川里己君）〔登壇〕**

収納率の部分では、やはり高齢化が進んでいるという部分もあるというふうに思います。武雄の国保の加入者が1万3,000人強ですね、その中で65歳から75歳の前期高齢者が大体3分の1を占めている、31%ですね、約4,000人、4,100人おられるというふうなことで高齢化の影響もあるということでもあります。

武雄の収納率を県の自治体の平均で比べてみますと、県が92.4%なんですね。武雄が90.8%、1.6ポイント平均よりも武雄市の収納は悪いんですね。ですから、この辺をぜひ上げていただきたいというふうに思っております。

佐賀県内の市町、20市町ありますけれども、そのうちで、目標はそれぞれありますけれども、達成しているのは15市町あるんですね。達成していないのが5つ、恐らくこの武雄市も未達成の部分に入っているんじゃないかなというふうに思いますけれども、その中で、佐賀市が95%の収納率を誇っているというふうに聞いております。これは、佐賀県一じゃなくて日本一、全国1位らしいですね。その次に高いのが、これは町ですけども基山町、これも高いというふうなことで聞いております。そういうことで、ぜひ先進的な取り組み、どういう取り組みをされているかわかりませんが、こういったところの事例に倣って、やはり向上させる必要があるというふうに思います。

1%収納率を上げることによって、1,000万円歳入がふえるわけですね。佐賀並みに95%まで持っていったら5,000万円の収入が浮くわけですよ、歳入が入る。ですから、ぜひここは収納率向上に向けて対応をしていただきたいというふうに思いますし、また、後だつて対策等についてはお伺いをしたいというふうに思っております。

それから、次、2番目ですね。2番目の医療費の削減というふうなことで抑制ですね、これについての今の現状の取り組みについてお伺いいたしますけれども、これはレセプト点検とかで医療費の適正化を図ったり、あるいは生活習慣病、特定健診、40歳から74歳までの皆さんの健診をしたり、あるいは人間ドック、脳ドック、人間ドックは40歳から65歳まで5年刻み、それから脳ドックに関しては43歳から68歳までの5年刻みということで、いろんな取り組みをしていただいております。この今の現状、このほかにもいろいろやられているというふうに思います。この状況についてどういう成果が出ているのか、まずお伺いしたい。

**○議長（牟田勝浩君）**

古賀くらし部長

**○古賀くらし部長〔登壇〕**

議員からも若干御紹介ございましたけれども、幾つか現在取り組んでいる事業につきまして御紹介をさせていただきたいというふうに思います。

まず、1つ目が特定健診です。メタボリックシンドロームというふうなことで、これは後

の病気が出てくるということを予防するために必要なことですが、特定健診を勧めているという状況でございます。本年度につきましては、ふるさと雇用創出事業によって看護師さんを2名採用いたしまして、個別に受診を勧奨するなどの対策をとっているというところでございます。

次に、ヘルスサポート事業という事業がございますけれども、これは現在、通院をされているというような方々につきましては特定健診を受けられない傾向が強うございますので、そういった方々に特定健診の項目を健診していただくというようなことでやっている事業でございます。さらには、医療機関へいろんな重複で受診をされたり、頻回受診をされたりという方いらっしゃいますので、こういった方々につきましても、看護師が訪問をいたしまして指導をしているということも行っております。

人間ドック、脳ドックにつきましては、議員御紹介のとおりでございます。

さらには、骨密度の健診、骨粗しょう症等やはり年齢を重ねるとこういった骨密度が落ちていらっしゃる方につきましては骨折が多いと、それに伴って入院をされて、さらにほかの病気にかかるというようなことにもなりますので、そういったものの予防に努めているというようなことでございます。

さらには、先発医薬品より後発の医薬品が値段が安いというようなこともございますので、後発の医薬品につきましては、希望される方についてはそれを使っていたきたいという趣旨で窓口を設置をしている、そういったものもしているということでございます。

以上です。

**○議長（牟田勝浩君）**

12番吉川議員

**○12番（吉川里己君）〔登壇〕**

いろいろと打つ手打っていただいているということで御紹介いただきましたけれども、本当に通院時に同時に健診までしてもらおうというヘルスサポート事業ですか、これは非常にいいなというふうに思っておりますし、また、きょうの新聞にもついていましたけれども、ジェネリック医薬品ですね、今シェアが23%ということでありますけれども、これも厚生労働省が30%まで24年度は持っていくということであっております。これも医薬品、50%から70%ぐらい格安というふうなことで書いてありましたけれども、ぜひその辺も推進をしていただきたいというふうに思います。

この医療費の抑制については、私も余り収支の改善にはつながらんだろうというふうに思うとったんですけれども、これが先日、2日前ですかね、医師会館で講演会があったのを聞いて考え方が180度変わりました。医師会館であったのは武雄市が主催して、武雄杵島地区の医師会が共催をされていますね。市長も医師会の壇上に上ってごあいさつをされた、主催者としてあいさつされたわけでありましてけれども、演題が「支える医療」というふうなこと

で、これは旧夕張の総合病院でありますけれども、破綻しました。破綻して再生するために夕張医療センターということで立ち上げられたのが、この村上智彦先生ですね、理事長をされております。この方が来られて、ちょうど若干50歳ぐらいの若い方ですね。この方のお話を聞いて本当に変わったんですね。予防医療が必要なんだと。夕張で今やっているのは予防医療を中心にやっています。1つ目はワクチンの接種、これについては肺炎球菌のワクチン、お年寄りにはこれをぜひ進めていると。それから、インフルエンザの予防接種。それから、口腔ケアですね、歯磨きを1日4回しなさいと、4回したら病気になりませんよと。それともう1つは健診、健診を必ず受けてくださいと、健診を受けられている自治体は、やはりそれだけ健康意識があるから病気にならないということを言われていましたね。それだけするだけでも、心筋梗塞が半分になりましたということです。あと、日々の節制のところではカロリー、やはり過剰なカロリーをとり過ぎないようにしましょうということ、それから運動不足にならないように。そして、環境ですね、環境はストレスをためないようにというふうなことでお話があったわけでありませう。

その中で、日本の国民の医療に対する満足度、世界最低らしいです。医療技術は最高、寿命は最高と。だから、そこの認識をやはり国民の皆さん、市民の皆さんが考え方をやはり改めないと医療費は抑えられませうよという講演会だったんですね。これはぜひ、市民の皆さん全員に聞いていただきたいというふうに思いました。

それと、もう1つ言われたのは、救急車の無料は世界で日本だけらしいです。大体1回出動するのに4万円強かかるということですね、それだけの費用がかかっています。

そういうことで、2050年には高齢化率40%になりますので、ぜひこの予防医療を推進してほしいというふうなことで講演がありました。このことについて、市長、部長、行かれとったと思いますけれども、何かコメントありましたら。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

村上智彦さんとお友達でよかったと思いましたが。最初私は、あの方から嫌われとると思っただけですね。というのは、なぜかと言うと、病院の民間移譲に当たってやっぱりあの方はもう地域医療ですもんね。私はともすれば救命救急が大事なんだというふうにして嫌われとるかなと思って、さきに会うたら、樋渡さんの選択は最高でしたということで、今、全国の医療界、特に地域医療が注目をしているということをおっしゃっていただいたんですね。そういった中で村上さんがおっしゃったのは、別に医師会が悪いとか、行政が悪いとか、住民が悪いとかじゃなくて、みんな勘違いしとると、みんな勘違いを。そういう中で、これは今度ケーブルテレビでも流れると思うので、内容については差し控えますけれども、やっぱり我々が常識で思っていることが非常識だということ、その結果、その非常識をちゃんとし



た常識に戻すことによって、先ほど吉川議員からありましたように、心筋梗塞が半分になったりとか、救急車の出動回数は夕張市は今全国最低だそうです。しかも、寿命は伸びているそうです。そういった中で、ああ、そうなんだということの本当の気づきの講演会になったと。これ、偉いのは医師会ですよ。よく貸してくれたと思いますね、本当に。だから、そういう医師会と連携をきちんとすることによって、市民の皆さんの福祉の維持向上につながっていくというふうに確信をしました。

その一方で、やっぱり保健師の見直しです。村上先生がおっしゃったのは保健師の皆さんが前面に立つところは物すごく受診率も高いし、その結果として健康だということをおっしゃったんですね。そいぎ、「どういうことですか」と言うたぎ、うちにも聞きました、井手さんたちに聞いたら、もうペーパーばかりで、厚生労働省に出さんばいかんやったりとか、これ前に教育委員会にも言いましたけれども、もうペーパーは出さんでよかですよ。もう適当に部長書いとってください。それよりも、保健師の皆さんたちは地域に出て、しかも御自宅に黙って入らるつとは警察と保健師ともういっちょ何か言いよんさったね、警察と保健師と弁護士やったかな、3つなんですよ。それだけ保健師というのは市民の皆さんたちの生命、安全に直結しとるわけですね。ですので、我々とする、健康行政については、暮らし行政については保健師を前面に立てるようなのに切りかえます。切りかえて、そこで顔の見える密着して、あの保健師、井手さんの言いさんないばと、村山さんの言いさあぎんたというふうに、そういった心温まるというか、つながりのある健康行政に持っていきたいと思います。ですので、ペーパーについてはくらし部長、御自身で書いてください。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

全国の自治体の医療費すべて右肩上がりですね、この夕張市だけは右肩下がり、毎年1億円ずつ減らしているそうです。だから、絶対勉強する価値はあると思いますので。

ぜひ市長にお願いなんですけど、やっぱり今回医師会館で約300人の方に聞いていただきましたけれども、これはやっぱり武雄市民の皆さん全部に聞いていただいて、自分で健康管理をするということの必要性をやはり植えつけないかんと思うんですね、啓蒙活動。ぜひ、これ文化会館の大ホール等を貸し切ってやるべきメリットがある事業だというふうに思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは同じことを牟田議長、黒岩議員からもお話を賜りました。やはり行かれた方は、こ

これは市民の皆さんたちに聞いてもらったほうがよかばいということですので——村上先生も非常に多忙なんですね、多忙ですので、村上先生の日程と私どもの日程で集まりやすいところに、ちょっと1年に、当分の間1年に一遍お呼びをして、その中に市民皆さん、文化会館の大ホールでしていただくのと同時に、保健師さんとか口腔ケアをされている方々であるとか、あるいはケアマネジャーとか個別にもしていきたいというふうに思っています。そして、看護師さんですね、看護師さんも含めてそうなんですけれども、これは必ずお呼びしたいというふうに思っております。そして、驚くべきことに質問に立たれていた方が伊万里のお医者さんだったんですね。「これ、何で来たですか」と言ったら、いや、市長のフェイスブックで来たという話ですので、そういった告知も含めて広く、これ武雄市民だけじゃもったいなかです。ですので、世界じゅうから集まるように、しかも泊まっていただくように仕掛けていきたいというふうに思っておりますので、ぜひ議員各位の皆さん方の強力な発信力で、また告知もお願いすることになろうかと思っておりますので、その際はよろしく申し上げます。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

本当に村上先生は顔もいいし、頭も切れて行動力抜群です。樋渡市長に似たタイプだというふうに思いましたけれども、この方、本当に気さくでツイッターでも私がフォローすれば、もうすぐフォローを返してくれます。講演会の後すぐ、フェイスブックも友達申請したらすぐ返ってくる。本当に気さくで庶民的な方で、非常にいいと思いますので、ぜひお願いをしたいと思います。

それでは次に、3項目めですね。国保税の見直しについてと、もう1つは一般会計からの繰り入れ、この2つについてちょっと一緒にお話しをさせていただきます。

所得割につきましては、平成18年度に9.9%であったものが19年度11%に改定がなされたわけでありまして、そこで、均等割が2万3,000円から2万5,800円、それから、平等割、世帯割ですね、これが3万2,000円から3万3,600円ということで改定をなされたわけがあります。それから、20年度に入りますと、先ほどから話があっているように、後期高齢者医療制度が入ってきたと、これで支援金が分かれていったわけですね。武雄市の税率についてどのように認識をされているのか。

それと、一般会計からの繰り入れですけれども、全国で大体2,500億円ぐらい一般会計からの繰り入れをされているというふうに伺っております。特に大都市では、大阪とか神奈川あたりもやられている。佐賀県の中でも幾つかあるんじゃないかなと思いますけれども、聞いたところによると、鳥栖が4,000万円ずつ毎年一般会計からの繰り入れをするということでありまして。武雄はゼロで法定外の繰り入れの特定健診分の3分の1の800万円ほどは入れられておるようでありまして、基本ゼロ。ぜひ、ここについては一般財源を投入する

べきだというふうに思いますけれども、今の状況についてお伺いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ非常に難しい問題で、以前から黒岩議員が御指摘もされた部分であるんですけども、今、先ほど吉川議員からもありましたように、佐賀市が物すごく徴収率が上がってるわけですね。これは徹底的に研究します。その上で、やっぱり先進事例はきちんと吸収してまねをすること、それによって歳入をふやすということ、それと歳出の抑制ですよね。これは吉川議員からありましたように、例えば医療費の削減であるとか、そういったことも含めて今、抜本的な改善策をくらし部に指示をしています。今、一生懸命考えてもらっているんですけども、それを見ながら例えば税率改定とか、今、暮らしが物すごく厳しいときになっているわけですね。一般会計の繰り入れについても、これは市民負担なんですよ、要するに。市民の皆さんたちのこっちに使う税金をこっちに持っていくということですので、これ市民負担には変わりなかわけですね。

そういったことも含めて、今、抜本策の指示をしておりますので、これをまた議会に提案をしたいと思っております。それでも、どうしても足りない部分になった場合には、また頭を下げて議会に、市民の皆さんたちをお願いをするという段取りをしていくつもりでおりますので、国とは全く逆にします。国は消費税率のアップばして、その当てはめばしよるじやなかですか。我々は懸命な努力をした上で、足らざる部分についてはしっかりお願いをするということにしていきたいと思っておりますので、ぜひ議会の皆様方と市民の皆さんたちの御理解をお願いしたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

ありがとうございます、検討するということですね。

ちょっと参考で結構ですので、税率の改定あるいは一般会計からの繰り入れですね。さっきちょっと鳥栖の部分申しましたけれども、県内でそういった取り組み今現在、やられているところがあるのかどうか、これ御紹介していただきたいと思えます。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

御指摘のとおり、県内各地も非常に国保会計が厳しいという状況になっておるようです。先般、小城市も税率を改定するというような記事も出ったわけですけども、現在のところ県内20市町があるわけですが、税率としてある一定の枠で計算をしてみますと、武雄市は

税率は15番目という位置に位置しておりまして、うちよりも低い、例えば伊万里市あたりも24年度は税率を改定するという事で決定をされているわけですね。

そういったことで、各市町苦慮をされているわけですが、先ほど御指摘のとおり、赤字補てんのための法定外の繰り入れをされている自治体ということで御紹介をさせていただきますと、先ほどおっしゃいました鳥栖市、それから鹿島市、白石町、玄海町、こういった県内では4市町がそういった対応をされているということでございます。

それから、税率改定につきまして、現在、私どものほうで把握をしている分につきまして御紹介をさせていただきますと、本年度、平成23年度に税率の改定をされた市町が伊万里市、嬉野市、有田町、太良町、以上の4団体でございます。それから、来年度、24年度から改定をすることが決定をされている団体が鳥栖市、小城市、以上2市でございます。

以上です。

**○議長（牟田勝浩君）**

12番吉川議員

**○12番（吉川里己君）〔登壇〕**

ちょっといろいろ言っていましたけれども、各自治体とも非常に財政厳しいということで見直しをかけているということですね。

これまで武雄市は3億6,000万円ほど、これ合併前ですけれども、一般会計からの繰り入れしておるわけですね。ただ、やっぱり合併後もこういった状況で2億円を超える累積赤字になっているといったことは構造的な問題ですね、国の問題が非常に大きいというふうに思っております。

この合併当初からここにおられる黒岩議員も、事あるごとに一般会計の繰り入れを国保の件ではおっしゃっていました。私もこれにはもう賛成であります。そういうことで、これが一般会計から繰り入れをするとすると、社会保険とか共済とか、こういったところのバランス、絡みもあろうかと思えますけれども、この累積赤字を解消するには、やはり一般会計からの繰り入れに頼らざるを得ないというふうに思いますので、ぜひ、これは黒岩議員がずっと提唱されております、一般会計の繰り入れ、ぜひ実現をさせていただきたいなというふうに思っております。

それから、あと県内の所得を見ますと、農業所得、県内これはすべてですけれども、米、麦、大豆、あるいは果樹、園芸ですね、こういったものを合算しますと、所得が平成19年が529億円あったんですね。これが20年度は488億円、21年度が478億円、2年間で農業所得、県内50億円下がるとです。ですから、こういったこの国保の加入者、被保険者といったものは、ほとんどの方が農業あるいは自営業で商売をなさっている、こういった方々がほとんどであります。こういった経済状況も踏まえて、やはり一般会計からの繰り入れを強く要求をしておきたいと思えます。

それと、次、最後に広域化ですね。私も広域化についてはぜひ推進をすべきだというふうに思っております。平成21年度の1世帯当たりの現年度分の調定額をいただきましたけれども、県内最低で13万円、平均が17万円、最高は22万円、各市町で調定額、倍近いばらつきがやっぱりあるわけですね。佐賀県の自治体を見ても8,000人から数万人の小さな自治体ばかりであります。そこで、今の所得が下がる、あるいは高齢化率が上がる、雇用が悪くなる、まちの財政状況もばらばら、こういう状況の中ではやっぱり安定した国保運営はできないと思うんですね。

そういう意味からすれば、今、市長とか部長が言われる広域化の部分については私も大賛成です。ただ、県内の広域化をしたからといって本当に財政が安定するのかといたらそうでもありません。そういった観点からして、今、執行部として制度的、財政的に今後どのような見通しになるのか、お伺いをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

御承知のとおり、広域化につきましては、まず、後期高齢者医療制度が廃止をされ、この分が国民健康保険に、この方々が入ってこられるということになります。まず最初に、75歳以上の方々が国民健康保険に入られるということになりますので、この方々を広域化で統一しましょうということになりますので、市町村国保に入られるわけですが、75歳以上の方々の保険料は県内一律ということになります。したがって、現在とそう変わらないかというふうに思いますけれども、平成29年あるいは30年、ここら辺をめどに全体を統一しましょうということで、現在事務的な協議がされているという状況でございます。

考えてみますと、県内所得が各市町でばらばらであるわけですので、これを一律に統一をいたしますと、その中間ぐらいでまとまるというようなことになるわけですので、そのばらつきというものは幾らか出てくるというふうに思いますし、今後の医療費の動向、所得の動向によっても税率については変わってくるというふうに思いますので、現在固まっているわけではございませんけれども、そういった各市町の違いを乗り越えて広域化を行って、広域化することによってスケールメリットが出てくればというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

やっぱり広域化をしても、最終的な根本対策にはならないんですね。ここはやっぱり国の一元化が必要です。国保税を決めるのも国、そして国庫負担するのも国、そして給付をするのも国、これをやっぱり一元に管理していかないと、また格差出てきます、アンバランスが出てきます。ぜひここは市長、厚生労働省に働きかけて、ぜひ国で一元化した取り組みを

すべきだというふうに思います。今の民主党政権ではちが明かんといいふうに思いますが、ぜひこの部分については、全国市長会等でも議題として上がるか上がらんかわからんですけど、そういった動きをしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

きょうのニュース見ましたか、また民主党が内紛ですもんね。もうこんな国、日本だけですよ。与党の中でまた内紛が起きて、もう完全な無政府状態です。ですので、私からすると、やっぱりこれは本当の真つ当な統治機構がない限り、この要望を出してもやっぱり無理ですもんね。そいけん、早うおたくとか、おたくとか早う政権に復帰してください、もう本当。その上でしっかりとした国民政権をつくっていただいた上で、私はきちんと要望をしたいというふうに思っております。

これは何も政治運動じゃありません。本当に今、これそのまま行くと、多分内紛が起きて、3月多分総選挙って言いよるでしょう。総選挙ばする時間ああですか。被災地がこうなって、しかも国保なんかもう崩壊寸前ですよ、もう我々も、国も、地方も。そういったところで、ぜひ国会議員の皆さん方にはちょっと猛省を促したいというのと同時に、これちょっと話はずれますけれども、国会議員定数どがんなあとですかね。（「80減」と呼ぶ者あり）それじゃ、とても足りません。しかも、給料はどがんなあとですかね。これ多くの国会議員の方々も見られているそうです。きのうは恐ろしゅう見とんさあですもんね。そいぎ、何ば言いたかかというぎ、やっぱり国会議員とか政府が身を切る覚悟をせんぎんた、例えば負担増とかやっぱりお願いできんはずですもんね。

そういうことで、我々地方は武雄市、小さい自治体といえども100億円借金を返しました。職員の給料も上げんで、議員の皆さんたちの給料も上げんで、すみません下げました、思いっ切り。その中で、我々は懸命な努力をしながら合理化ばして、足らざる分についてはお願いをするということをぜひもう肝に銘じてほしいとやっぱり思いますよ。そうしないと、この国はまともな方向に行きません。

以上、そのように所感を申し述べました。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

本当に国の対応はつまらんですね。選挙のときにはいいこと言うて、衆議院は80人議員を削減する、参議院も40人程度削減するといつて当選、政権をとられたんですね。これが全くやれない。本当にまやかしの政権だといふうに言っておきたいといふうに思います。

それから、今るる今後の動きも含めて答弁をしていただきましたので言うことございませ

んけれども、まず、この赤字を解消するためには平成29年が広域化、合併の目途でありますので、ぜひ庁内で、今23年度であります。あと数年ありますので、この中できっちり時間軸で目標設定をしていただいて、改革に取り組んでいただくよう強く指摘をしておきたいと思っております。

それから、次に行きます。ICT自治体の先進的な取り組みというふうなことで通告をしておりましたけれども、情報化の進展に伴いまして、自治体においても情報化の重要性、非常に増してきております。そういう中で、武雄市役所は全国に先駆けていろんな打ち手を今打とうとされておるところであります。また一方、市民の皆さんもインターネットに触る機会、使う機会、非常にふえてきたんじゃないかなというふうに思っております。

(パネルを示す) これはちょっと私の考えだけですので、違うところもあると思っておりますけれども、自治体のICTのコンセプトということで、市役所と市民、あるいは企業とか、そういったところをインターネットというツールで結びましょと、そこで情報をお互いに相互にやり取りをしますということなんですね。それを切り口に今武雄市が使っているのがフェイスブック、我々が目指すところは地域の活性化、産業の活性化ばしたかわけですね。そのために今やられているのが11月からF&B良品TAKEOですね。それから、事務の簡素効率化、これはやっぱり行政の手続をワンストップ化させていく必要があるというふうに思っています。あっち行ったり、こっち行ったりというやり方をやめる。それから、住みよい市民生活ということで、素早い行政情報を、いいやつも悪いやつも流してやる、災害情報もリアルタイムに発信をする。また、これ以外にも3番議員からお話ありましたように、学校教育のICT化などもあると思っております。

こういったコンセプトを実現していくためには、やはりパソコン人口をいかに拡大していくかと、ICTのリテラシーをどれだけ向上するかというのが非常に大事になります。そういうことで、平成23年度におきましては、この寺子屋事業を展開していただいたわけでありましてけれども、まずその状況について内容をお知らせいただきたいと思っております。

#### ○議長（牟田勝浩君）

山田つながる部長

#### ○山田つながる部長〔登壇〕

フェイスブックとかツイッターなどICTを活用するというふうなところで、武雄市ICT寺子屋事業を平成23年度に実施しているところでございます。

パソコンとかインターネットの使い方、それからフェイスブック、ツイッター等の利用方法を教える講習会、その講習会の修了者が集まって教え合う勉強会、それから電話等による操作のサポート、そのような内容を実施しているところでございます。

(パネルを示す) これがICT寺子屋講座の風景でございます。このような形で小学生といますか、小さい子どもさんから大人の方まで一緒に勉強をしてもらっているというところ

ろでございます。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

すばらしい写真を見せていただきましたけれども、ちなみにどれくらいの方数がおられるのか、それと年齢構成ですね、どういった方々が受講をされているのか、もしわかれば教えてください。

○議長（牟田勝浩君）

山田つながる部長

○山田つながる部長〔登壇〕

ICT寺子屋の受講者の中身でございますけれども、6月から始めまして現在12月ということで、6月は36人ということで非常に少なかったわけですが、（紙面を示す）すみません、資料が小さくて申しわけございません。7月は147人、8月は142人、9月は170人、10月になりますと197人ということで順次ずっとふえているというふうな状況になっておりまして、あと年齢的には非常に高齢者の方といったらあれですが、60代の方が一番多いということで、この10月で申し上げますと95の方が60歳代ということで、次が50歳代の47人、次が70歳代の32人というふうな数字になっているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう少し平たく言うと、武雄自動車学校と同じなんですね。どういうことかと申し上げますと、車の免許を持たなくても生活はできます。しかし、免許をちゃんと受講してお金を払ってとると、もう皆さんおわかりだと思うんですけども、その生活の幅とか豊かさが、以前免許を持たないときよりも人によってはもう何十倍と広がっていくということだと思うんですよ。ですので、これについては全く車の免許と同じです。ですので、こういう受講をすることによって、行きとうなかねという方々もいらっしゃいますけれども、これを受けて、そういう技術を身につけることによって、それが広がっていくということになります。

じゃあ、例えば、私の父親はもうIT超弱者です。そいぎ、どういうことばしょおかというぎん、うちの妹に、息子にあいば書けとかって言いよるわけですね。ということは、車の同乗と一緒になんですよ、車の同乗と。ですので、そういったITの利用の仕方もありますので、ぜひ、先ほどICT寺子屋ありましたけれども、もっと我々としても広報をしていこうと思っていますので、ぜひ、門をたたいていただければありがたいと思います。IT弱者だった山口昌宏議員も、このごろメールでばかばかしよんさあですね。やっぱりもう年齢は関係ありません、もう好奇心だけです。ですので、そういう意味からも山口昌宏議員ができん



さあとやあけん、もう皆さんたちもできるというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

ちょっと余談になりますけど、私の義理の母も定年退職して、去年まで携帯電話も持たんやったですね。パソコンは二、三年前に買うとったばってん、ノートパソコン使いよらんやった、使い方もわからんということでおしとったです。寺子屋事業にお世話になって、もう二、三カ月になりますけれども、もうこの前、突然フェイスブックに登録して、友達申請が来るんですよ、市長のところにも来たと思いますけれども、そのように、本当に高齢者の皆さんも非常にすぐ（発言する者あり）いや、高齢者も多いんですよ、非常に多い、受講生ね。やっぱり今まで一生懸命仕事をされて、そういうパソコンに触れ合う機会がなかった方たちがぜひ利用をしていただきたいというふうに思います。

そこで、この事業費ですね、23年度はどれぐらい事業費をかけられたのか。それとまた、新年度ですね、どれぐらい事業費をかけて、これ展開されるつもりなのか。ぜひ、この事業については、まだ単年度でやめるのではなくて、複数年でぜひ継続をしていただきたいというふうに思っております。いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

山田つながる部長

○山田つながる部長〔登壇〕

ICT寺子屋事業につきましては、緊急雇用の創出基金の事業を活用いたしまして、23年度につきましては約1,300万円ほど活用させていただいているところでございます。非常にICT寺子屋事業につきましては好評でございますので、24年度につきましては、新しい公共の場づくりのためのモデル事業ということで申請しまして、これについては内定をいただいているところでございます。

あと、先ほど申しました緊急雇用創出基金事業等を活用しまして、24年度につきましても現在同じような内容で質、量とも落とさないような形で取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

ぜひ質、量落とさないようにお願いします。

余談でありますけど、このパソコンをすることによっても、やはりさっきの国保じゃないですけど、健康を維持できるんですよ。本当に勉強になります。脳の活性化にもなりますので、ぜひこれは推進をしていただきたい。そういうことで、ぜひお願いをしておきたいと

思います。

それでは次ですね、これも3番上田議員のほうで質問ございましたけれども、F&B良品TAKEOですね、この取り組みについて若干お伺いをさせていただきます。

この取り組みについては、武雄の特産品をネット販売するというシステムだというふうに認識をしております。これまでのレモングラスといえば、どちらかという流通経路を見てもみますと、大型店に売り込み攻勢をかけていくやり方だったんですね。これがやっぱりちょっと切り口を変えてネット上でやっていく。このことによって情報発信ができる。それによってブランド化も図れる。そして、生産者の売り上げにつながる。僕は一石三鳥の取り組みを今先進的にやられているなというふうに思っておりますけれども、この内容について、もう少し詳しく市民の皆様にお伝えをしていただければというふうに思います。

#### ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

（パネルを示す）これも何回か出しましたけれども、武雄市のホームページをフェイスブックに移行して、月平均今まで5万人だったのが、今、8月1日から12月6日までのデータなんですけれども、1,300万人を超えています。その方々が武雄市のフェイスブックページをごらんになっていただいているんですね。月に直すと330万人の方が見ておられるということ。単に、この人たちに見てもらっているだけではもったいない、物を買ってもらおうということ、しかも地元の地場産品を買ってもらおうということ、大手の通販の会社は広告料まで含めると、手数料を含めると5割とられるんですよ。例えば、1万円の物を売りますといったときに、自分の手元に残るのは流通費等々を含めると恐らく2,000円ぐらいなんです。ですので、大手の通販会社に武雄で結構売れよとああじゃなかですか、例えば物産館とかさまざまのところかありますけれども、みんな引いているのは手数料のばか高さにあるわけですね。我々は行政です。行政は手数料を取って運営する必要がありません。ですので、本当にいいもの、真っ当につくっていただいているものをフェイスブックに載せる。そうすると1,200万人のうちの3割が見たにしても360万人ですよ。その人たちが買ってくださいということとあって、今回私どもだけです、これ全国で初めてなんですけれども、我々しか技術を持っていませんので、フェイスブックページに直接買い物かごを載せると、そこから物を買ってくださいと、出展者の方々は手数料もただだし、写真も我々が撮りに行きますし、これが行政の仕事なんですよ。

どういうことかという、これがあることによって、売れば地域の皆さんたちの所得の維持向上につながっていくわけですね。今度、武雄の山内町の船の原の農家の方の兼業農家です。兼業農家の、これ普通市場に出んですよ、しかも物すごくおいしかです、私もいただいて食べます。これを御田中（みたんなか）米として出したところ、飛ぶごと売れよおとで

すよ。2,100円です、送料込みです。本当だったら、通販に出せば2,800円ぐらいになるわけですね。それ、だれも買わないですもん。だけど、さっきの手数料を入れない形で料金設定しておりますし、ゆくゆくは黒岩議員からも御指摘があったように、ここはきちんとF&B良品TAKEOそのものがもうかることによって、その流通に入れることにできれば、流通費も入れることにできればさらに安くなっていくんですね。

(パネルを示す) 今までの実績ですけど、これはページです。今、立ち上げの11月7日から11月末までの売り上げ、まだ20日間ぐらいですね、約20万円です。これだけやっぱり売れるんですね。我々が目指すところは3年間で1,000品、そして、年商10億円を目指す。これがまだ夢物語です。みんな私がこいば言うたら笑いんさあですもんね。でも、やっぱり行政が夢ば描かんぎ、だれが描くですか。しかも、やっぱり所得が上がりんぎ元気にならんです。しかも、農業経営者の方々の元気がなからんぎんた、小池副議長がふうぎんさあです。ですので、そういったことで進めていきたいと思っております。

そして、全体の仕組みなんですけれども、これは武雄市の特産品等を中心として、これから本市と縁のあるところも出していこうというふうに思っています。例えば、陸前高田の商品、これは被災地支援にもなります。被災地支援にもなりますし、新潟県三条であるとか、福岡市であるとか、我々と交流の深いところも出す。出して、その上で選定委員会のアドバイスをいただきながら載せていきたいというふうに思っております。

今、8品しかありません。私は、言うことは思い切り大ぶろしきで言いますが、実際始めるときはこまかですもんね。ですので、1月は20商品以上のラインナップを考えており、商品をどんどんふやしていきたいと思っております。

そして、あしたになりますけれども会見を開きます。会見を開いて、今度はこれが全国に広がる仕組みをつくります。織田信長は楽市楽座を長浜城下だけだったです。私は議会の力を借りて、この楽市楽座を全国、世界じゅうに広げたいと思っております。これは、あることによって、武雄のみならず地域に、不便なところに、僻地にお住まいの方々が本当に、ああ、自分たちがここに住んでよかったと、こういう生産をしてよかったって、しかも、それが所得につながっていくってことを、ぜひロールモデルとして被災地支援と同じぐらい議会の力をかりながらこれを進めてまいりたいと、このように思っております。

いずれにしても、このF&B良品TAKEOというのは、全国初の取り組みでもありますし、さまざまなまだ課題がありますけれども、ぜひ議員の皆さん、これからお歳暮シーズンでございます。——余り言うぎんいかんとか。はい、やめておきます。

○議長(牟田勝浩君)

12番吉川議員

○12番(吉川里己君)〔登壇〕

時間もありませんので、(パネルを示す) このF&B良品TAKEOが一番いいのは、や

はり店に買い物に行かなくても物が買える、これは顧客にとって一番のサービスだと思うんですね。逆にもう1つは、生産者から言えば、店に売りに行かんでも買うてくんさあわけですね。お互いメリットがありますので、ぜひこれやっていただきたい。

そして、これは武雄になじみがある全国の皆さん、そして、なじみはないけど初めてだという方もいつでも、どこでも商品が買えるようになっておりますので、ぜひF & B良品TAKEO発でやられますけれども、これがさらに飛躍することを期待したいと思います。

それでは、次に行きます。

次に、行政手続のワンストップ化ということで事務の簡素効率化についてお伺いをいたします。

ちょっと1点だけ事例でございますけれども、今、市民の皆さんからよくお話あるのは、市役所に申請に来たときに非常にたらい回しをさせられるとか、あるいは行ったり来たりさせられるということを聞くんですね。これをぜひICTに置きかえていただきたいというふうに思います。例えば、転入手続のとき、新しく転入される方は市民課で転入届を書かれます。子どもさんがおられたら、例えば子ども手当の申請を支援課に行く、医療費の無料化を申請に行くとか、あるいは未来課のほうで保育園の申請だとか乳幼児健診の申請をする。健康課で国保、あるいは国民年金、後期高齢ですね、介護、こういったものの手続をする。あと福祉課に行ったり、教育課で奨学金の手続をしたりと、ここに挙げているのは一部分でありますけれども、こういった手続が発生をしております。で、行ったり来たりと。これをぜひICT化に乗せていただきたい。転入届を転入される皆さんが基本データだけ書いていただければ、それを職員がパソコンに住所、氏名、年齢、家族構成、それぞれの条件を打ち込んで、そして、それに必要な書類がプリントアウトされて出てくる。そこにはもちろん名前とか、年齢とか、住所とか、いろんな必要なやつがもうパソコン上で打ち込まれると。それを担当課に持って行って処理をするということで、このワンストップ化をぜひ図っていただきたいというふうに思います。これは、黒岩幸生委員長、ICTの推進委員会を立ち上げておりますけれども、この前、山崎CIOをお呼びしてお話しをしたときも、この事例に近いものも出てきておりました。ぜひモデルとしてやっていただきたい、このように思っておりますけれどもいかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、これ全く同感ですね。やっぱり市民の皆さんたちの意見に耳を澄ませると、またいろいろ回ったて、さっきつながる部長がこっそり、「いや、これはここ、ここ何とか課に行くごとちゃんと書いちゃあです」って言うて、それはそれで行政サービスだと思うんですよ。しかし、やっぱりわからんですもんね。私でもわからんですよ。うそです、わかっています。

ですので、そういったことからすると、やっぱり市民サービスをなるべく歩いていただかずにするというのはICTの力があればできる。ただ、これ市民の皆さんたちにぜひお訴えをしたいのは、これ番号制にせんぎ無理です、番号制に。そいけん、例えば、朝長議員1番、山口等議員2番、上田雄一議員3番というふうにして、4番、5番、6番、欠番というふうにして、そういうふうにやっぱり、そういう番号をして、そうすると番号に名前とか入っとるわけですよ。そこに、例えば家族構成とか、そういったことが入ると自動的にどこでも出るようにするんですね。ですので、これちょっと議会とまた別途相談をして、特にIT推進委員会と山崎耕史最高情報アドバイザーと協議をして、どこか地域を決めて1回試行の練習をしたほうがよいかかなと思って、そうせんといつまでたっても机上の空論ですもんね。ですので、これは御理解のいただけるところに仮ナンバーを振らせていただいて、総背番号制というぎたまた聞こえの悪かけんですね。そいけんクレジットカードのごと番号を振らせていただいて、これが本当に行けるかどうか、技術的にはもうでくつとですよ。できますので、それをぜひ、来年年明けからプロジェクトチームをうちでもつくりましますので、IT推進委員会と山崎耕史さんと含めて協議を進めていきたいというふうに思っております。

それと、もう1つです。今の庁舎じゃあ、それをしても無理ですね。庁舎がそういうふうになつたらんわけですよ、なっていません。もうどんなにICTで頑張っても、そこは傍聴者の浅尾さんもうなずいておられますけれども無理です。ですので、そういったことも含めて、これはICTと庁舎の置き方ですよ、置き方を含めて同時並行に検討する必要があるだろうというふうに認識をしております。

**○議長（牟田勝浩君）**

12番吉川議員

**○12番（吉川里己君）〔登壇〕**

やっぱりシステムに置きかえようとしたときに、余り深いところまで考え過ぎたらできません。ですから、人間に頼るところは絶対残るんですね。それはもう担当課の窓口に行って処理をする。ですから、まず簡単なレベルからいいと思うんですね。ぜひシステム化をしていただきたい。そのシステム化するには、やはりマニュアルづくりが必要なんですね。手順書をつくらないかん。これは民間のISOの9000シリーズですね、品質管理マニュアルがありますけれども、仕事の業務フローをきっちりをつくって手順書に置きかえる、マニュアル化する、これが重要であります。ぜひ、これをつくり上げていただきたい。これは力仕事ですね。これをやっていただきたいというふうに思います。これをしておくことによって、毎年の人事異動、人が新しくかわったときの引き継ぎも簡単にできるようになります。ぜひ、このICT化、ステップを踏んでやっていただきたいというふうに思います。

それでは、ちょっと時間ないので、次に行きます。

被災地支援の取り組みでございます。チーム武雄の被災地支援の取り組み、それから瓦れ

きの受け入れについては今まで複数の議員が質問に立たれたところでございます。市長も息の長い支援をしていきたいということで、私も賛成であります。

市民の皆さんから、またボランティアに行く機会があったらぜひ行きたいという声がありますし、テレビ等の報道で見れば、今は東北地方はワカメの生産がスタートして、種の植えつけ時期なんですね。そこに今ボランティアの募集をされているというふうなことも聞いております。ぜひ、これどこに行くかわかりませんが、その地域の実情に合ったボランティアを来年度また計画を立てていただきますようお願いをしておきたいというふうに思います。

それから、瓦れきの受け入れですね。これについては今後、国の動きがどうなるかということで見守っていかなければなりませんけれども、私も震災から2カ月目の5月に市長、それから議長を初め8人の議員団で1週間、宮城県の若林区のほうに瓦れきの搬出作業、これに行ったわけでありましてけれども、やっぱり瓦れきの量、物すごい量ですね。

〔市長「物すごい量」〕

恐らく今もそうじゃないかなと思います、最近ちょっと行っていないんですけども。報道でもあっていますように、復興がやはりブレーキになっているのは瓦れきだと、瓦れき処理だというふうに伺っております。我々も何とかそこのお手伝いをしたいという思いはいっぱいあります。クリーンセンターのある地元の議員としては、原発による放射能を帯びた瓦れきの受け入れは断固反対します。しかし、その受け入れをするに当たっては、原発による放射能を浴びていない一般の廃棄物と同じレベルのものであれば、それは受け入れをぜひしていく、これは大前提として言っておきたいというふうに思います。これは市長と私も認識は一緒だと思います。何でもかんでも反対するつもりはありません。

今、地元では例えば受け入れをしたら、これ裁判にするというふうなことを地元川上でも言われている方がいます。こういうことに対してどういうふうに思いますか、市長。

〔市長「だれが言いよおと」〕

知らん。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

良広さん、あなたが言いようですか。

〔5番「いや、おいじゃなかばい」〕

いや、私もきょうちょっと実は、たまたまなんですけれども、あるお寺の私は壇家でありますよ。そのときに橋口春俊さんっていう元市議、私はほとんど面識ありませんけれども、この方が言うたっていうふうに聞きましたよ。一般人だったら私はそんなこと言いません。ですが、市議ばしよった人が、三者協定っていうのがあります、地元には、あるいは二者協

定ってという言われ方もされますけれども、これに重大な違反ばしとおて。そいぎ、これ裁判すっぎんた市長に勝つもんねと言うたらしかですもんね。これ、複数から私聞きましたよ。

そういうふざけたことを言っちゃいけませんよ。どれだけ被災地の方々が苦しんでおられるか。しかも、私も再三申し上げていますが、瓦れきを放射線をつけたとば持つてくるなんて一言も言うたらんでしょ、上田議員、言うたらんでしょね。それなのにね、地元ですよ、私も川上です。うちのじいさんは区長やったです。そのときに、やっぱり武雄のためというて住民ば説得して回いよったですよ。それにもかかわらず、そういうことを御存じでしょ、彼は。ふざけていますよ。人の話を聞いて、ちゃんと反対するなら反対するでよかですよ、それはよかです、それはいろんな考え方もありましょ。しかし、人の話を聞いてから、特に地元の話も聞いてから、その人役員なんですか、何かの。全然違うでしょ。しかも、そういうふうなお寺で、しかもそういう壇家さんに対して、そういうふうにもし市長が受け入れるってなったら裁判に訴えて勝つもんねっていうことに関して言えば、私は本当に激しい憤りを、もうめったに私は怒らんでしょ。もう栄八さんとがんすつときも全部演技ですよ、私は。しかし、今回だけは怒りました。ですので、そういうふざけたことを言わないでほしいというふうに思っております。

あわせて、もし私が申し上げたことが間違いだと、言うたらんということであれば、それはまた教えていただいて、吉原議員でも通じて教えていただいて、その上で私は陳謝をしたいと、このように思っております。今のままでは断固抗議をいたします。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

そういうことが言われているということに対しては、本当に心ないと思います、私も心なかばってん。ただ、やっぱりお寺の世界と、しゃばの世界は分けてしないと、何のためにお寺に行っているかわかりませんよ、市長。やっぱりお寺というのは、お父さん、お母さんに感謝をする、先祖に感謝をする、生かされていることに感謝をする、そういう場なんですよ。そこに政治の場を持っていくというのは、やっぱり私はナンセンスだと思います。この辺はもう少し良識ある行動を皆さんとっていただきたい。そして、中身がまだはっきりしていないんですよ。

〔市長「そうそう」〕

そこで裁判とか何とかいう話が出ること自体がもうナンセンスです。もう話したくありません。

それでは、次に安心・安全について質問させていただきたいというふうに思います。

子育ての安心・安全というふうなことで、私も朝日小学校の放課後児童クラブ、あるいは小・中学生の医療費ですね、入院医療費の無償化、これについて何度か一般質問で取り上げ

をさせていただきましたけれども、今回、本当に馬渡こども部長初めこども部の皆さんの努力によって、無償化の話と施設の改修の提案が条例と、それから予算措置というふうなことで上程をさせていただいたこと、本当にありがとうございます。感謝をしたいと思います。厳しい状況の中に、これ英断をしていただいた市長、本当に感謝を申し上げたいというふうに思っております。

そこで、馬渡こども部長のところを批判する不作為だと、仕事をしていないということですね、そういった記事が議会通信の中で出される。このことに対しては、本当に遺憾であるというふうに思っております。怠慢部にしたほうがいいというふうなコメントもあったわけですけれども、やはりこれは本当に市長、侮辱されているんですよ、市長の部下が。

〔市長「はい」〕

やっぱり怒らないかんですね。

〔市長「怒っていますよ」〕

怒っていますか。——ちょっと静かにさせてくれん。宮本議員、出して。一般質問されんやろ。

○議長（牟田勝浩君）

続けてください。

○12番（吉川里己君）（続）

そういうことで、僕は擁護するつもり何もなかですけど、このこども部、数十項目の仕事をされています。このように、確実に一つ一つ仕事はこなされています。ですから、その部を怠慢部にしたほうがいいのか、そういう言い方は絶対議員としてはやるべきではないし、そのことは公式の場で謝罪をしなければ、これはいつまでも尾を引くというふうに指摘をしておきたいと思います。市長、どうぞ。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

きのうの一般質問でも宮本栄八議員に私は質問をしました。やっぱりぬかにくぎ、馬耳東風、これだけ強い人は私は見たことがありません。私は、この方は議員を辞職すべきだと思いますよ。それはどういうことかと言うと、要するにルールを守らない人が議員でいることは武雄市議会の恥です。彼を選んだ有権者の人が気の毒です。ですので、一回議員をやめて、それで——議決を守らんぎですよ。守らんぎ、やめた上で自分の所見を自由な立場で、今も自由な立場でおっしゃっていますけれども、それを言うのがやっぱり人間としての私は務めだと思いますよ。本当に、議員でいる資格は彼には僕はないというふうに思っております。

それは単に、きのうきょうの話じゃありません。今までさまざまなことを考えて、今回の議決破りというのは、僕は必然の因果でいうと、果の結果だと思っております。それを私の



ほうから申したい。それをしないと、やっぱり子ども部の名誉回復は無理ですよ。そういったことで議決をきちんと守るか、守らなければやめるということで私からは辞職勧告案内をしたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

これは執行部だけじゃないんですよね。懲罰委員会がつくられて、懲罰委員長の報告があった、可決した。そして、本会議でも懲罰で可決をしたわけでありまして。このことについては、やはり議会のルールを守らないというのは、ほかの真つ当な議員に対する本当に挑戦なんです。だから、そこを汚さないように、ぜひ謝罪することを僕は求めたいと思います。そこは議長、きっちりやっていただきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

いや、今までしよったたい。

○12番（吉川里己君）（続）

それから、安心・安全についてお伺いをいたしますけれども……

○議長（牟田勝浩君）

言いよったろうもん。（「うん」と呼ぶ者あり）

○12番（吉川里己君）（続）

庁舎の建設について、12月の段階で耐震結果が出るというふうなことでお伺いをしておりましたけれども、その結果、出ていましたら報告をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

気を取り直して答弁をしたいと思います。

市庁舎の耐震診断の結果について、私から御報告を申し上げます。

まず、議員御案内のとおり、目標とする耐震性のI s値というのは0.69であります。これは、ぜひ念頭に置いていただきたいと思います。

普通、耐震の調査をやるときは、東西方向ともう1つ南北方向でクロスしてやるんですね。その結果を申し上げますと、まず東西方向のI s値を申し上げます。1階では0.5、2階では0.32、3階では0.41、4階では0.68、また、庁舎の南北方向については1階で0.31、2階では0.29、3階では0.32、4階では0.48となっており、これ、いずれも目標とする耐震性のI s値の0.69を全部下回っています。

さらに問題なのは、まだこの議会が低っかとはよかですよ、いいんですが、市民の皆様方が多くお越しになる、さっき吉川議員からも御質問があった2階ですよ、この2階の部

分については建物の耐力があると判定される、先ほどの0.69の半分にも満たないんですよ、半分にも。これ、驚くべき話であります。今回はちょっと数値だけちょっと申し述べますので、答弁については最初はこの辺にさせていただきたいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

耐震性のI s値について今報告をいただきましたけど、やはり建物の強度とか、粘りとか、あるいはバランス、こういったものを総合的に判断して半分以下にしか評価されていないということですね。本当に約半世紀たちますので、ぜひ、その場しのぎの耐震化補強だけじゃなくて、やはり全体的なフロアのレイアウトも含めて、時代に合ったものにしていく必要があるというふうに思いますので、ぜひ新築の方向でお願いをしたいと思いますし、今度の東日本の大震災で合併特例債が5年間延長になったわけでありますけれども、このことによって、今後庁舎のあり方についてどのような進め方をされるのかお伺いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

合併特例債の5年間延長については、まだ決まったわけじゃありません。これ一部ちょっと報道が先行いたしましたので、これはちょっと注意深く見る必要が、多分大丈夫だと思うんですけど、まだ本決定はしておりません。

その中で、私どもとすれば、まず、市民の皆様方に強くちょっと訴えたいのがやっぱり今の庁舎なんですね。これは以前、山口等議員にお答えしたと思うんですが、長崎新幹線がルートになっていますので、（パネルを示す）これだけ食われるわけですね。そうなったときに、具体的に言うと、面積で言うと2,135平米です。全体敷地の21.8%が、この新幹線用地でおとられるわけです、標準語で言えばおとられます。しかも今、皆さんお車に乗られて来ております。来ておられて、駐車場台数でいうと86台の駐車場がこれでだめになるわけですね。ですので、もし建てかえるということになった場合には、それはもう高層ビルしかなかわけですよ。だって横のなかとですけんね、しかありません。ですので、こういったことも含めて、どこに建てるか云々、あるいは建てないかも含めて、診断結果を含めて庁舎のあり方について本格的な検討に入ってまいります。

今、もう少しちょっと時間をいただきたいのは、さっきI s値についてちょっと申し述べましたけど、もう少しこの報告書について詳しく分析をします。分析をした上で検討委員会をきちんとつくって、それもオープンにします、オープンにした上で皆さんたちから意見を賜ればありがたいというふうに思っております。

そして、長崎新幹線なんですからけれども、その補償にかかる調査を現在行っています。だか

ら、幾らで補償できるかですね、補償して下さるかということについては並行して調査を行っていくことを申し述べたいと思います。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

それでは、よろしく願いしておきたいと思います。

あと、9月に行われた防災訓練がありましたけれども、この取りまとめも12月ぐらいまでにやるということだったんですけれども、原子力発電の事故を想定した訓練ね、それから、水害を想定した訓練、何かまとめられたところで大きな課題等あったら簡潔にお願いします。

それから、それ以外にいろんな動きをこれまでされてきたんじゃないかなというふうに思います。何かありましたら簡潔にお願いいたします。時間がありません。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

一般の反省点、あるいは課題でございますが、全体的に情報収集のやり方、それから避難勧告等の早期の判断をどうするかと、避難所の整備とか、あるいは各関係機関との連絡調整というのが課題として上がったというふうに思っております。

今後、地域防災計画の改定の中に原子力災害編の追記、あるいは災害姉妹都市等の提携、災害応援協定締結の推進、医師防災組織の設置、災害時要援護者の避難支援体制の確立等を追記したいというふうに思っております。

それと、お約束しておりました検証レポートについて、議員の皆様、市民の皆様にも近々配付したいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、答弁とはちょっと関係ない話なんですけれども、先ほど私が議員の資格はないと宮本栄八議員に申し述べたことは、これは取り消させていただきます。議長から強い指示がありましたので、これを受けて取り消させていただきたいと思います。勧告についてはそのまま残しておいてほしいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

最後1点ですね、ちょっと時間ありませんので、（パネルを示す）消防について、これは

6月議会で消防団、消防団員の活動の環境改善をぜひ進めてほしいということで6項目お願いをしておりました。早速、この3項目めの年末警戒については対応していただいたということで、これまで28日、29日、30日の3日間、早朝4時まで対応されていたものを29日、30日の2日間、午前0時までということで見直しをしていただいたということでもあります。これについては、消防団の団長の川口団長、それから、ここにもおられます末藤副団長、非常に御尽力いただいたというふうに聞いております。このことに対して、市長どのように思われますか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この件については、やはり川口団長の決意が99%です。いろんな異論、反論があったというふうに聞いていますけれども、やっぱり団員のためであるとか、地域の皆さんたちがやっぱり年末年始ぐらい御家族と一緒に過ごすという温かい御配慮、そして、それを支えた末藤副団長ですね、本当に感謝を申し上げたいと思います。これによって、武雄市の消防団というのは本当に感謝をされると、地域の皆さん方も感謝されるし、若い消防団員の皆さんからも感謝をされると、よく踏み出してくれたなというふうに思って感謝を申し上げたいと、こういうふうに思います。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

ありがとうございます。

それでは、あと5項目ありますけれども、何か進展があるものあったらお知らせください。なかったらよかですよ。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

消防団の活動環境の改善について進展があったものについてですが、火災メールの登録、これにつきましては、6月1日時点で490名でございましたが、今回12月1日時点では552名ということで4.4%の登録者の増加というふうになっております。

以上でございます。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

少しずつふえておるようであります。100%目指して頑張っていただきたいなというふう

に思っております。

ことしもあと残すところ2週間余りというふうになったわけでありますけれども、安心・安全を目指して、また住民福祉の向上に向けてさらに頑張ってくださいをお願い申し上げます。私の質問を終わります。

○議長（牟田勝浩君）

以上で12番吉川議員の質問を終了させていただきます。

ここで、議事の都合上、5分程度休憩いたします。

休 憩 11時11分